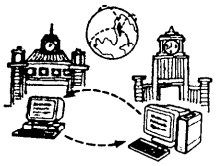
巻頭言



学会活動の使命を考える

——環境変化に対応した学会活動——

松　永　伍　生†

社会環境の変化は，価値の多様化をもたらし，“情報”が重要な地位を占めつつある．その情報を，より早くウォッチし，活用する，いわゆる情報処理(システム)が，社会インフラになり，我々の創造と夢を実現してくれているのではないだろうか．

これに応えるかのように多様化，高度化しつつある情報処理の技術研究／開発は，左脳的論理処理に終始していたノイマン型に加え，脳機能を模倣するニューロコンピュータのような新しい分野を指向した非ノイマン型の右脳的直感処理へと拡がりをみせている．

一方，目前の市場を見ると，バブル景気から，深刻な世界不況に直面し，本情報処理分野も，二桁成長から一変し，誠に厳しい状況に曝されている．右肩上がりのみの経験しかない情報処理関係者にとっては未曽有の苦しみに直面している．また，無形のソフト／サービス部分が，ハード部分の比率を越えるといった変化にも直面しつつある．

しかし，この経済環境の厳しい中で，情報処理は，着実にグローバル化，ボーダレス化に向い，一方で，マイクロエレクトロニクス技術，ネットワーク技術などの飛躍的進歩にともなうダウンサイジング化，分散処理化など著しい構造変化をしつつある．そのような中で求められる情報処理の技術研究／開発では，利用者層の拡大によるいわゆるエンドユーザコンピューティングをなし得る標準化，共通化，オープン化技術が重要であろう．共通の知識／認識で物事が進むことは，人間にとって極めて快適である．しかし，本分野の革新的技術進歩は，エンドユーザをややもすると混乱に陥いれることになる．横文字キーワードの多い本分野では，キーワードがきちんと定義され共通認識のもとに位置づけ，使われているか些か心配である．技術進歩の裏で陳腐化も著しい．情報処理の裾野が広がる中で，混乱と不安を広げることのないようにせねばならない．

私は，事業担当理事として，全国大会の開催，各種シンポジウムの開催，連続セミナーの開催ほか事業関連の業務に携わっており，早1年を経過した．その間，関係者のご協力を得ながら，この激変する情報処理分野の最先端をリードするに相応しい活動として，会員の先端情報知識の共有を念頭に，内容の充実に取り組んでいる．

このような観点から最近の第46回全国大会での招待講演，パネル討論では，“Security and Management of Open Systems”“コンピュータを見直す—人文科学とコンピュータ”，“情報処理の新分野を探る”などをお願いし，好評を得ている．また，今秋の第47回全国大会では，“脳が食べる—脳のエネルギー代謝をめぐる諸問題—”“リアルワールドコンピューティング”，“ダウンサイジングの実像”を，招待講演，パネル討論で予定している．一方，連続セミナーも一昨年度から新しい試みとしてスタートし，昨年度のテーマは，“21世紀に生き残るコンピューティングは何か”，今年度のテーマは，“激変する社会環境に立ち向かう情報システム”で進めている．

このような活動を通じて，従来の情報処理分野の常識の対象分野を拡大し，今後の本分野の指針発信源としてお役に立っていきたいと考えている．本学会活動が，魅力ある，喜ばれる学会であり続けるよう願う次第である．

(平成5年5月31日)

† 本会理事　(株)日立製作所